

—2008年度—

明日を生きる

子どもたちのために



一宮市小中学校PTA連絡協議会

一宮市教職員組合

## はじめに

この度、保護者のみなさまと先生方のご理解とご協力により、2008年度「明日を生きる子どもたちのために」が発刊できる運びとなりました。

現在の科学技術や経済の発展は、物質的な生活を豊かにしました。それに伴い、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。ことに、子どもたちにかかわる事件や事故の報道もよく聞かれます。マイナス面ばかりの報道があふれる中、子どもたちに明るい未来を指し示し、健全な成長を促すための環境を確保していくことが私たち大人の責務と考えており、教育の現場と家庭や地域社会が連携して子どもたちに接していくことが大切であると感じています。

今年の7月には、「健全育成の会（父母と教師との対話集会）」を開催し、「今こそ、子どもたちのために - 心と心のつながりを求めて - 」というテーマのもと、保護者のみなさまと先生方が一つの会場で、「子どもとの心と心のつながりを深めるためにはどうすればよいか」「家庭と学校が協力してどのように子どもと関わっていけばよいか」ということについて活発な話し合いを行いました。また、9月には、「一宮 母と女性教師の会・文化講演会」を開催し、多数の参加を得ることができました。講師の香山リカさんからは、「自分は本当にかんばっている」「自分にもいいところがある」という自己肯定感を持つこと、そして相手を思いやり、信頼することこそ、心豊かに生きることへつながるということを教えていただきました。近年、社会では不登校やいじめ、児童虐待など様々な問題が増え続けています。これは、大人たちが子どもたちの苦手とするところを「そんなこともできないのか」などと言ったり、さらには子どもたちの精一杯のがんばりも、「できてあたりまえ」としてとらえたりして、子どもたちの価値や存在を否定することが多いからではないでしょうか。私たち大人が子どもたちと接する時に心がけることは、「常に子どものよいところに目を向け、行動を認め、褒めてあげること」「子どもたちが自分に自信が持てるように支援をすること」ではないかと考えます。

さて、2008年度「明日を生きる子どもたちのために」では「絆～心と心のつながりを求めて～」と題して、小学生・中学生・保護者・教師の考えや目ごろ感じていることを比較し、まとめました。すべての子どもたちが生き生きと輝き、日々の生活を楽しく、そして有意義に過ごすことができるように、私たち大人が今なすべきことは何かを考えるための一助となれば幸いです。また、この冊子が新しい時代を生きる子どもたちの輝かしい未来のため、家庭と学校での教育をより充実させる資料として、広く活用されることを願ってやみません。

最後に、家庭・学校・地域が、子どもたちの現状、そして未来を考え、一步一步努力を積み重ねていくことを確かめつつ、はじめの言葉とさせていただきます。

平成20年12月

一宮市小中学校PTA連絡協議会  
会長 松永吉彦

# 目 次

## 絆～心と心のつながりを求めて～

### I 子どもたちの心の内面

- ① 子どもたちが楽しくなったりうれしくなったりするとき ..... 1
- ② 困ったことや悩みがあるとき ..... 2
- ③ 自分の気持ちを一番理解してくれる人 ..... 3

### II 周りの人とのつながり

- ① 学校生活の楽しさ ..... 4
- ② 友だちとの関係 ..... 5～6
- ③ 先生との関係 ..... 7
- ④ 家族との関係 ..... 8～9

### III 輝く未来に向かって

- ① 将来の夢について ..... 10
- ② 将来に向けての話し合い ..... 11
- ③ 夢に向かって ..... 12

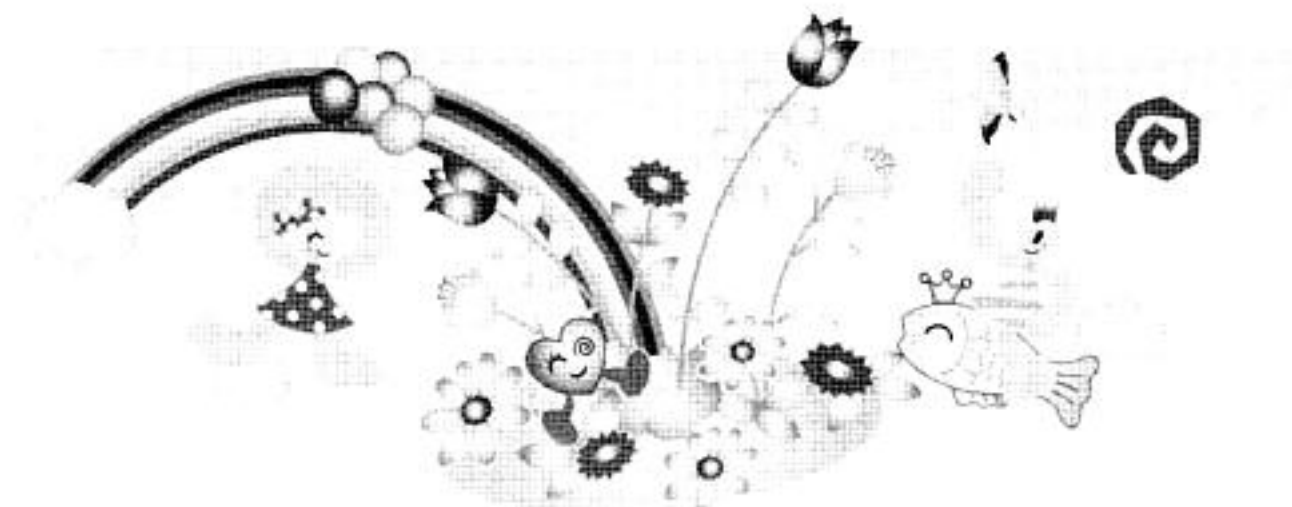
#### <アンケート実施者>

☆小学生 ..... 小学5年生

☆中学生 ..... 中学2年生

☆保護者 ..... 小5・中2の保護者

☆教 師 ..... 小学校・中学校の教師



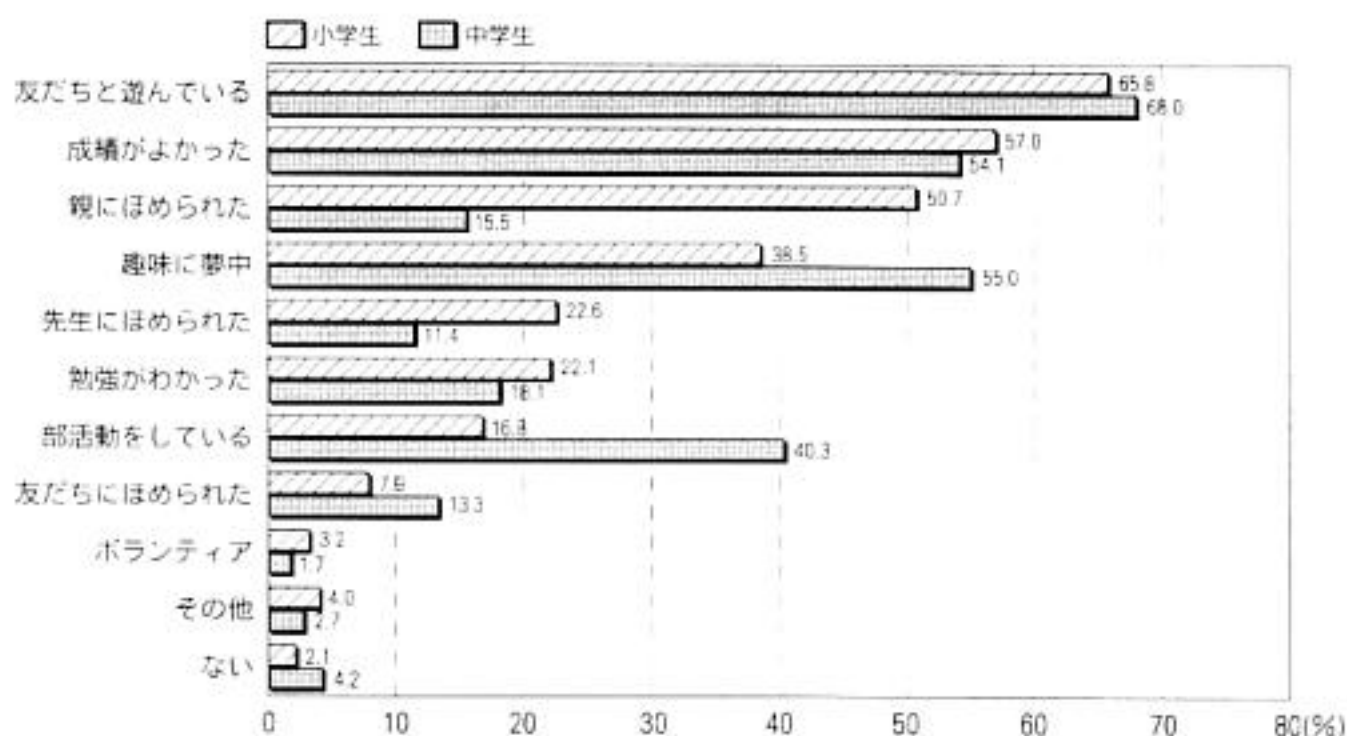
## I 子どもたちの心の内面

子どもたちの心の内を見てみよう。



### ① 子どもたちが楽しくなったりうれしくなったりするとき

◆ あなたが楽しくなったりうれしくなったりするときはどんなときですか。◆  
(複数回答 3つまで)

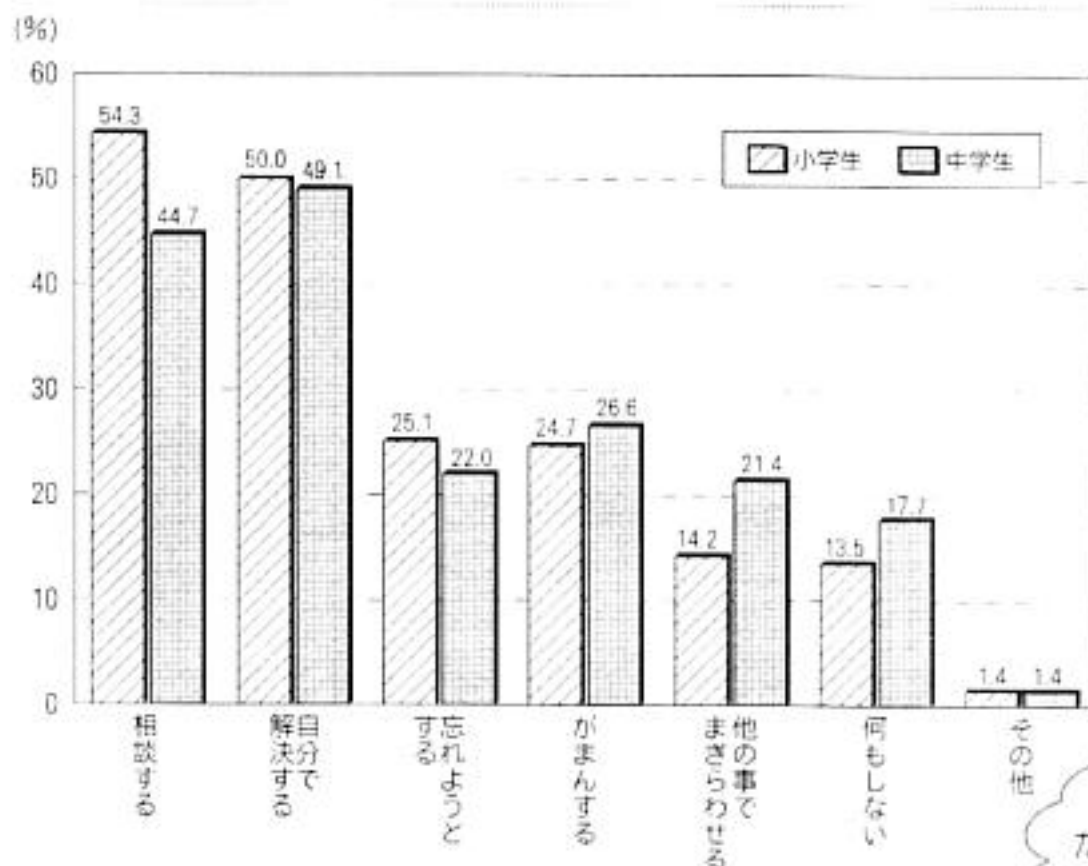


小・中学生ともに「友だちと遊んでいるとき」や「成績がよかったとき」に楽しい・うれしいと感じています。次に、小学生は「親にほめられたとき」にうれしいと感じ、中学生は「趣味」や「部活動」を楽しいと感じています。



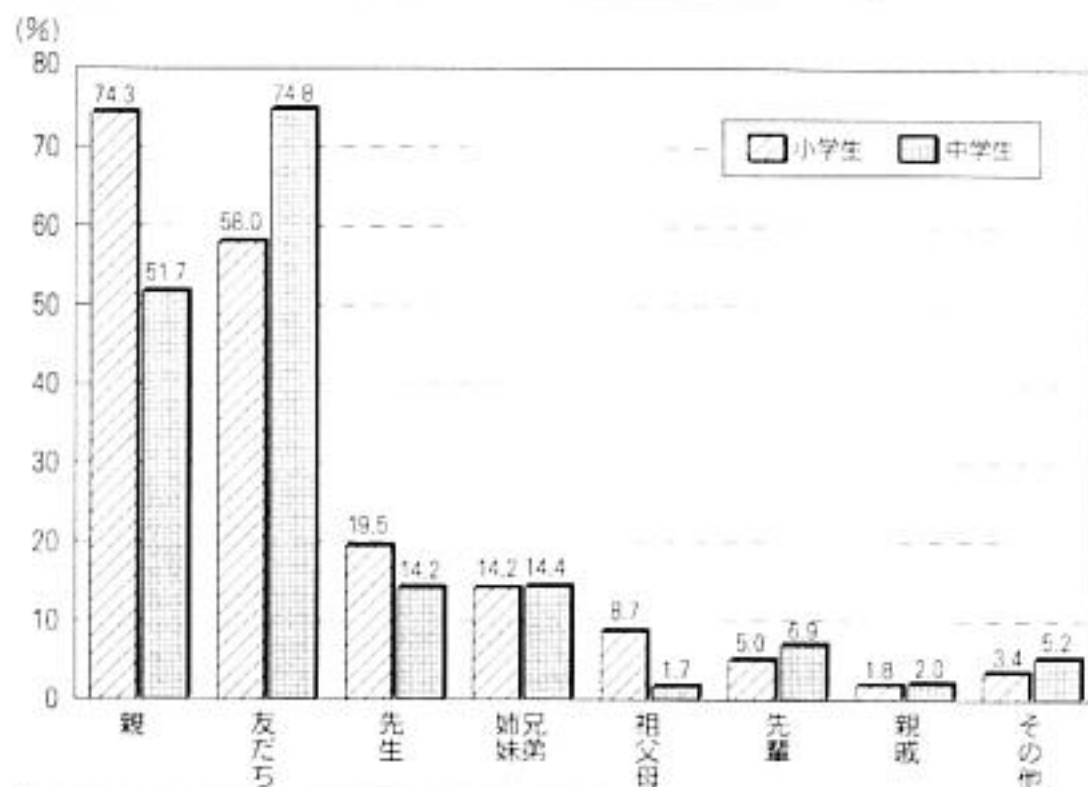
## ② 困ったことや悩みがあるとき

◆ 困ったことや悩みがあるときは、どうしていますか。(複数回答3つまで) ◆



困ったときは、だれかに相談したり、自分で何とかしたりしていますね。

◆ 困ったことや悩みをだれに相談しますか。(複数回答3つまで) ◆

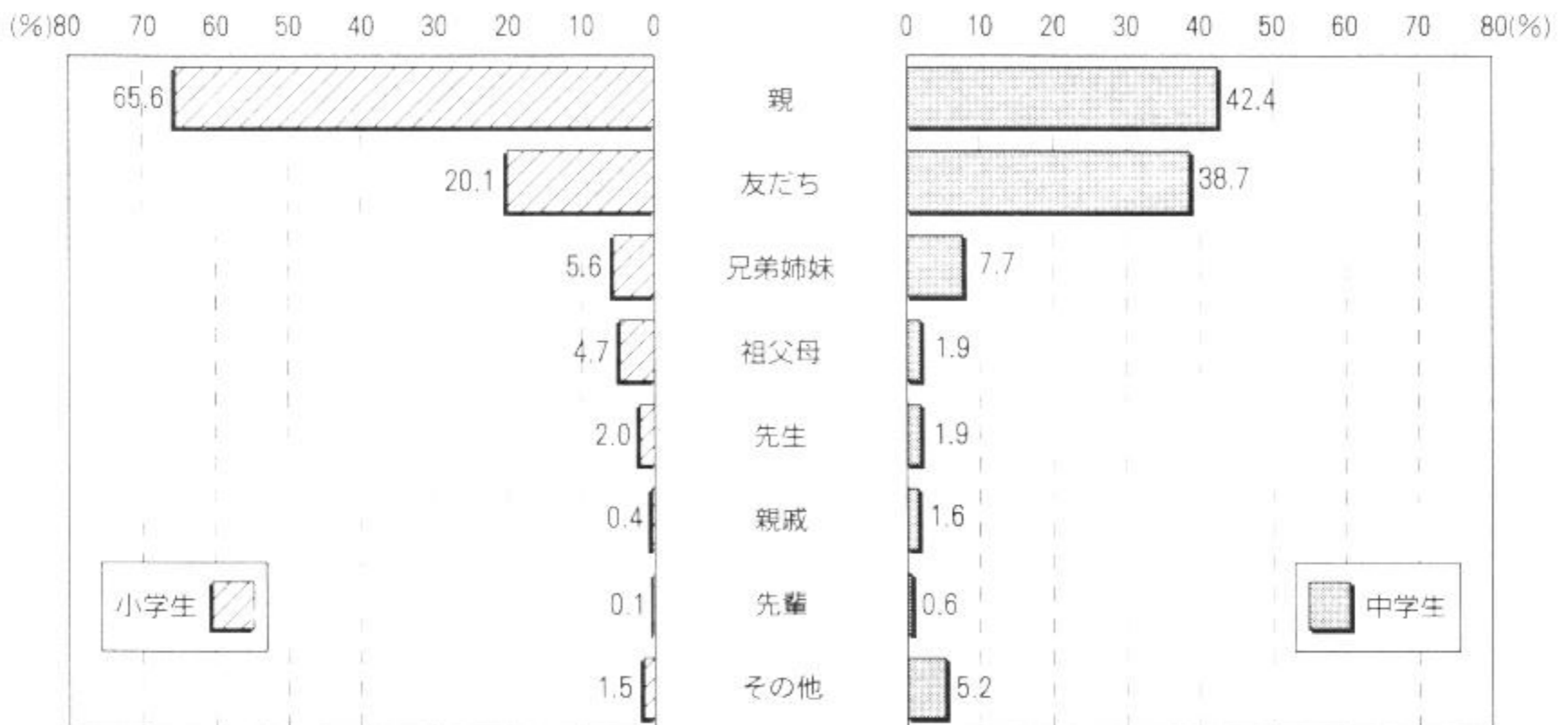


小・中学生ともに、困ったときには「親」や「友だち」に相談しています。中学生になると「友だち」により多く相談するようになります。



### ③ 自分の気持ちを一番理解してくれる人

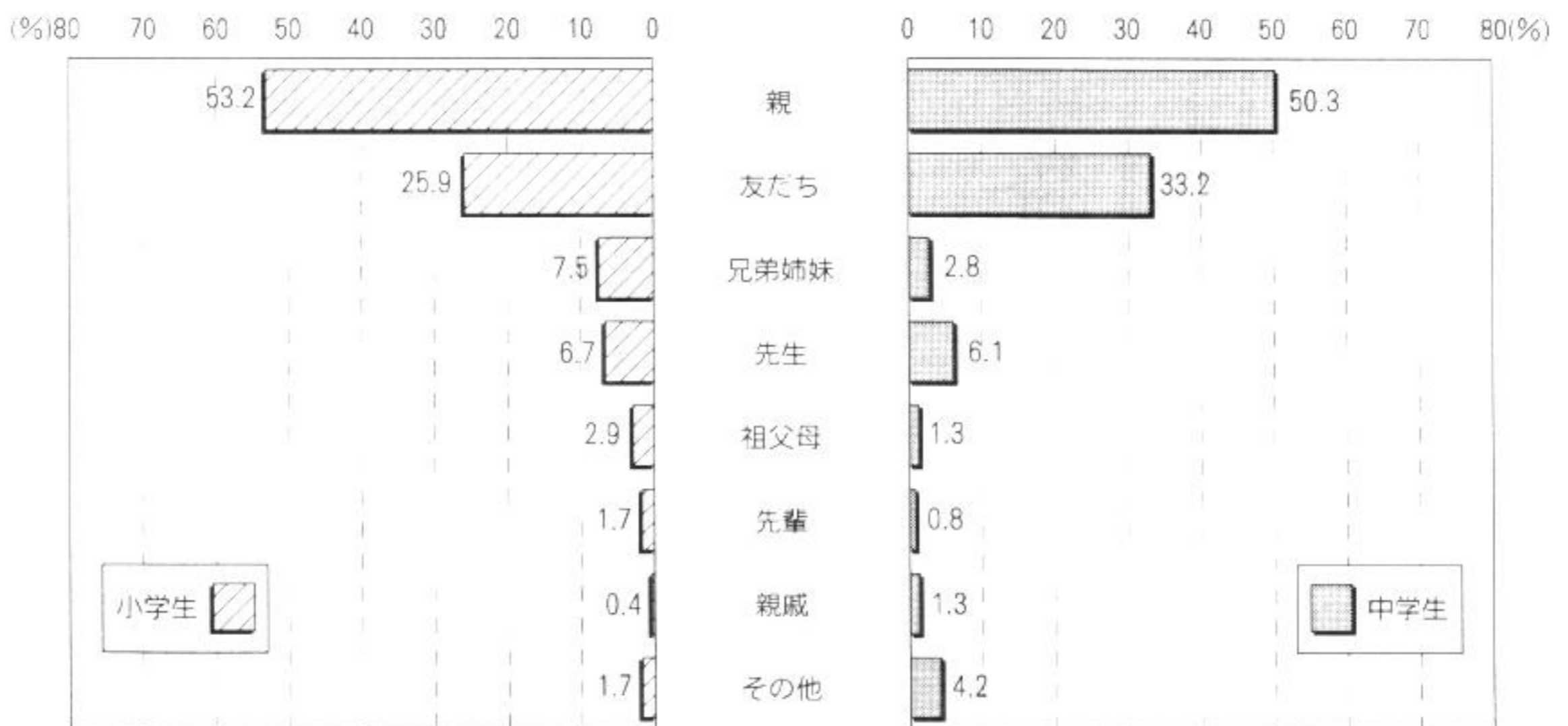
◆ 自分の気持ちを一番理解してくれる人はだれだと思いますか。◆



小・中学生ともに、一番の理解者は「親」、続いて「友だち」だと考えているのだね。



◆ 自分の気持ちを一番理解してほしいのはだれですか。◆



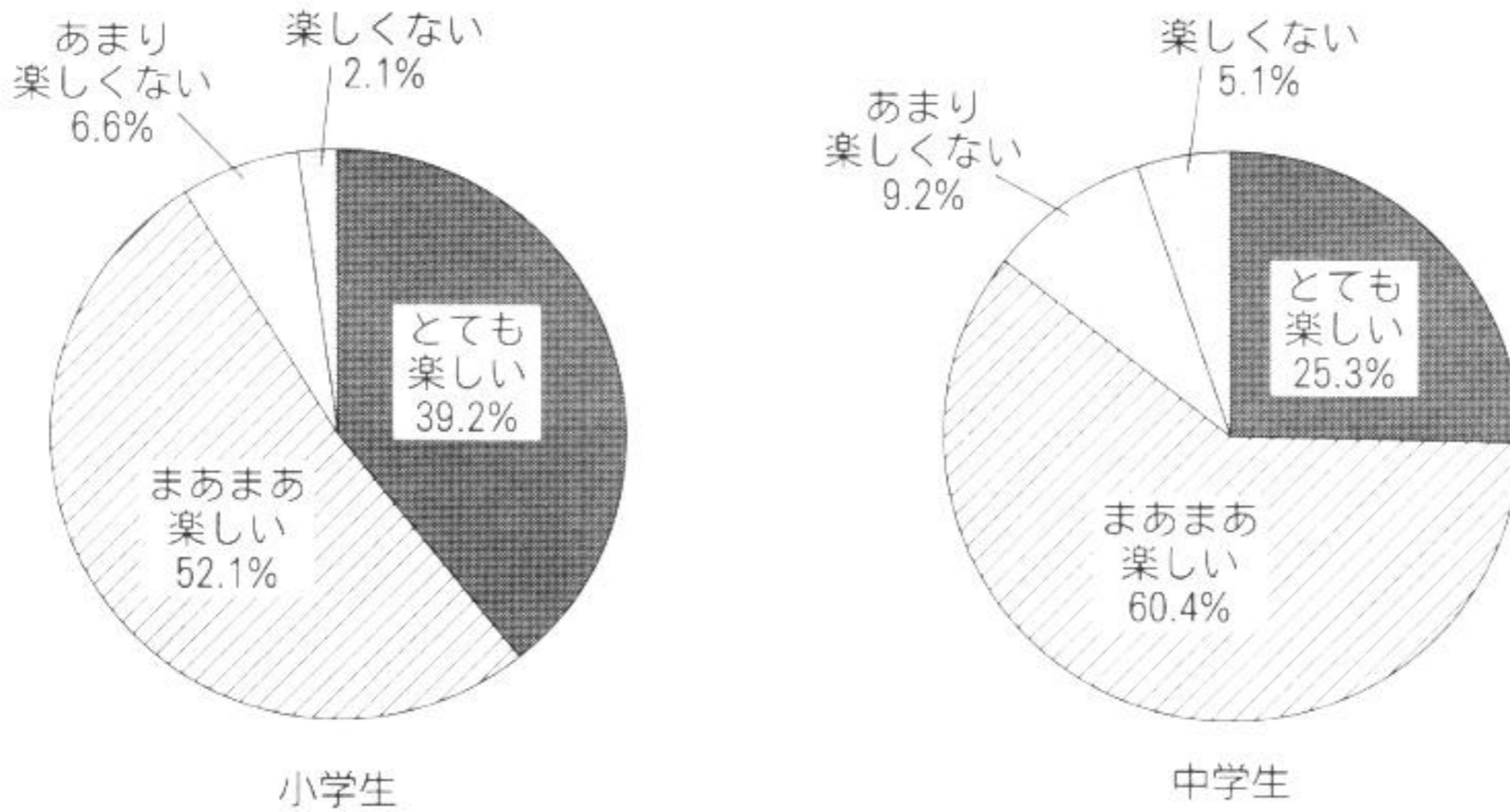
小・中学生とも自分の気持ちを保護者に理解してほしいと願っています。中学生になると、同年代である友だちに理解してほしい気持ちが強くなるようです。



## Ⅱ 周りの人とのつながり

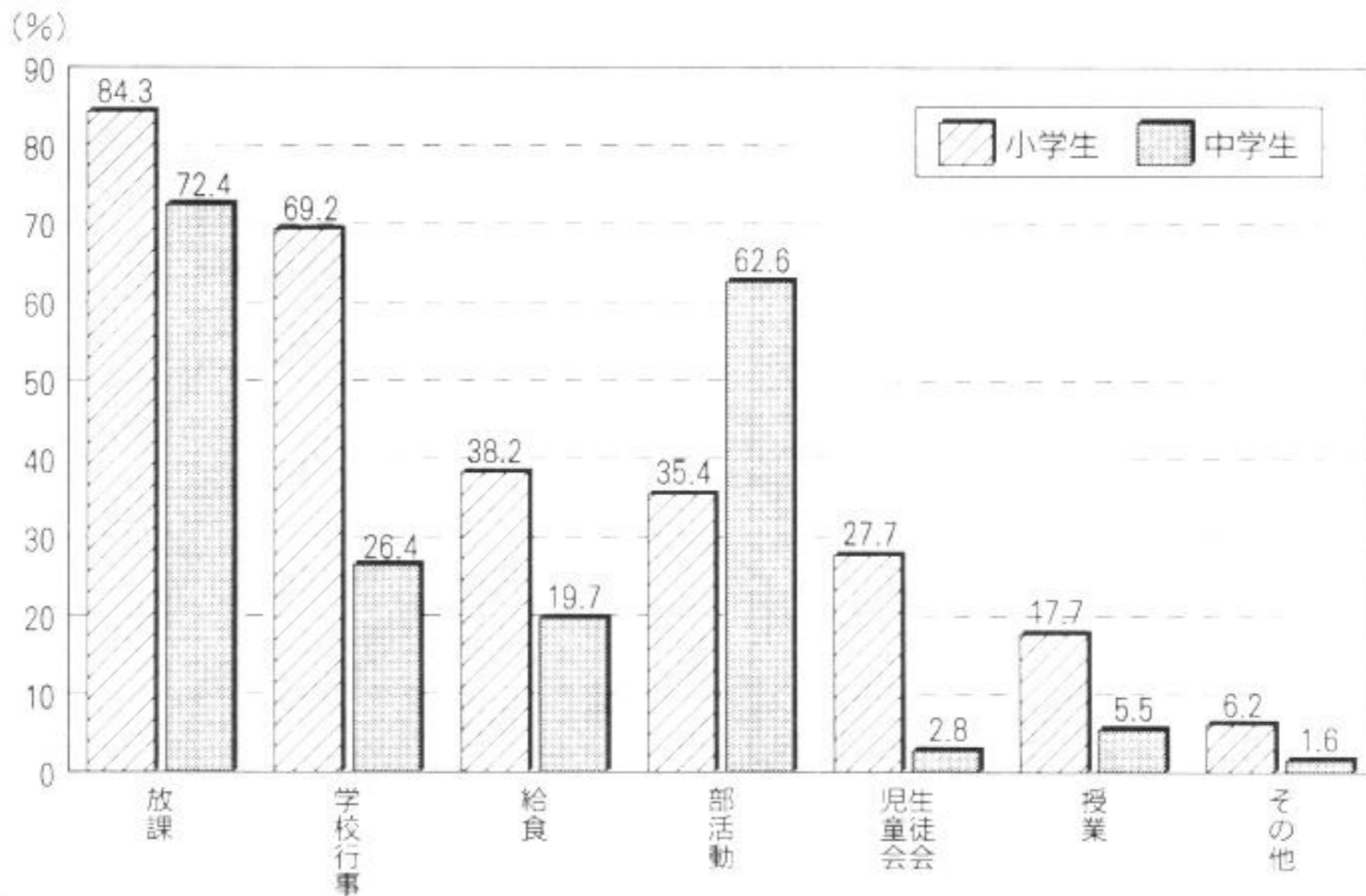
### ① 学校生活の楽しさ

◆ 学校生活は楽しいですか。 ◆



小・中学生ともに9割近くの子どもが、学校生活は楽しいと感じているんだね。

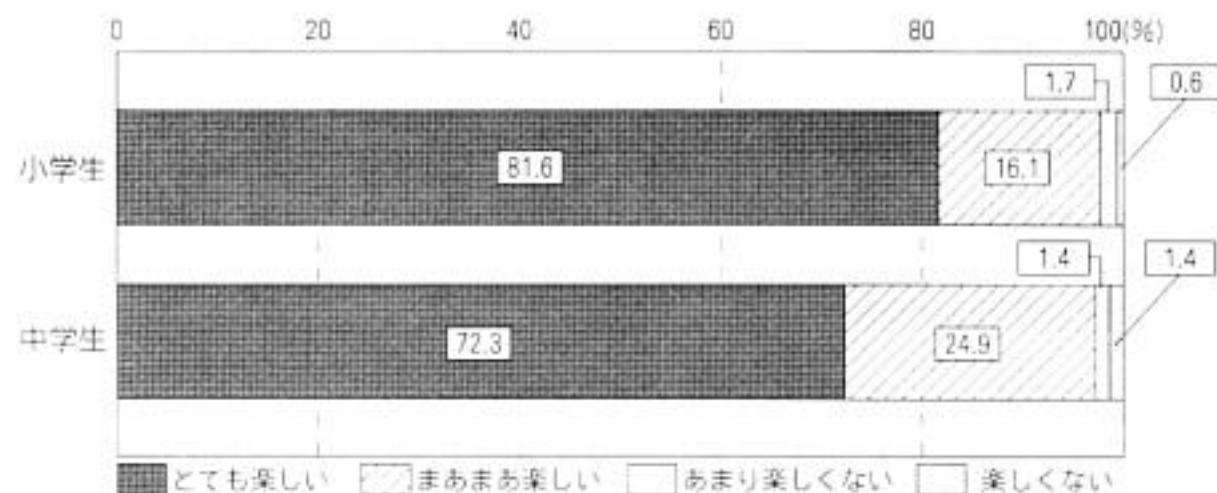
◆ 学校生活の中で、何をしているときに楽しいですか。(複数回答2つまで) ◆



小・中学生とも「放課」が一番楽しみです。次に小学生は「学校行事」を、中学生は「部活動」を楽しんでいます。

## ② 友だちとの関係

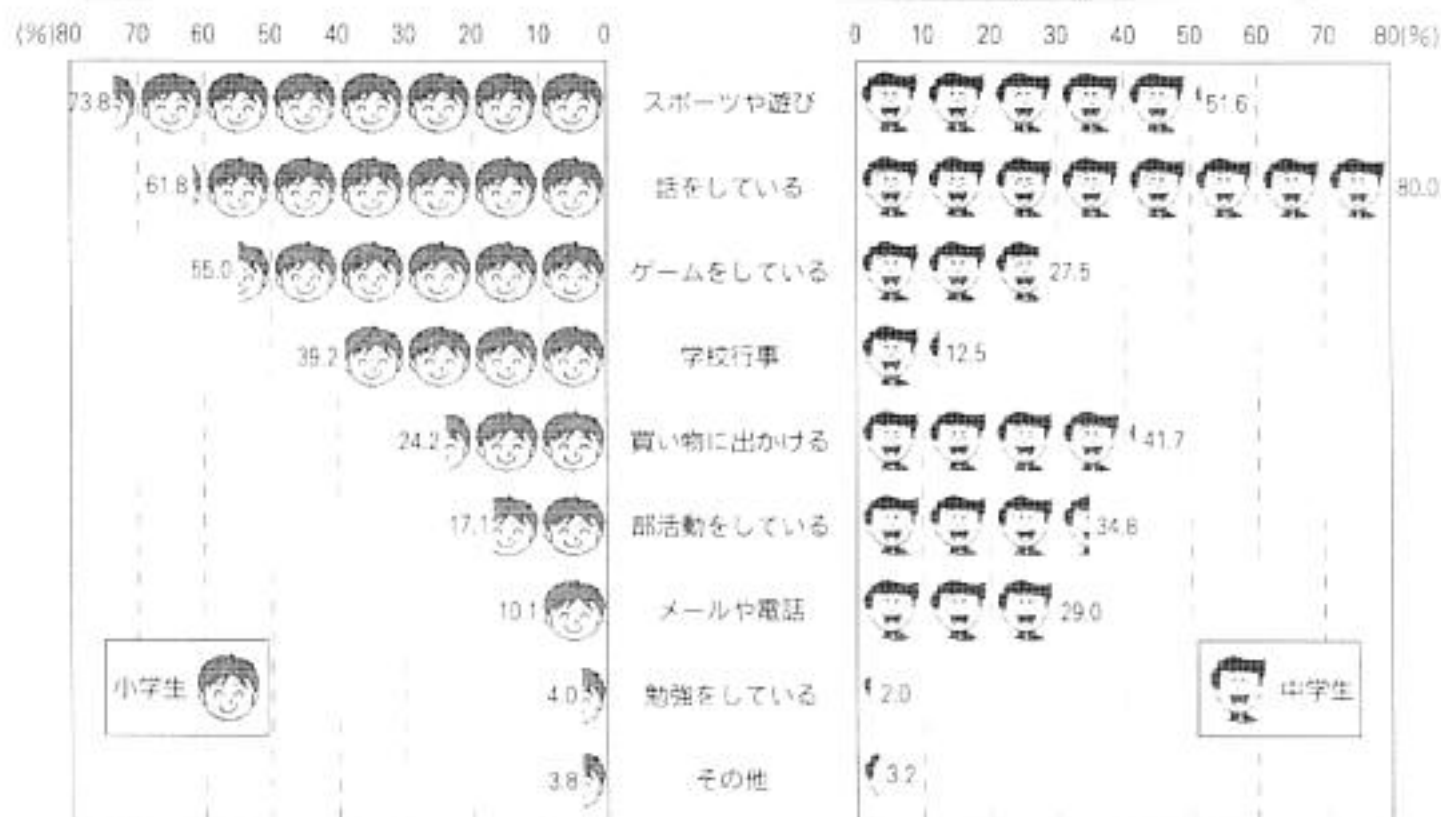
◆ あなたは、友だちといる時間が楽しいですか。◆



ほとんどの子どもが、友だちと一緒にいることを楽しいと感じているね。



◆ あなたは、友だちと何をしているときに楽しいですか。(複数回答3つまで)◆

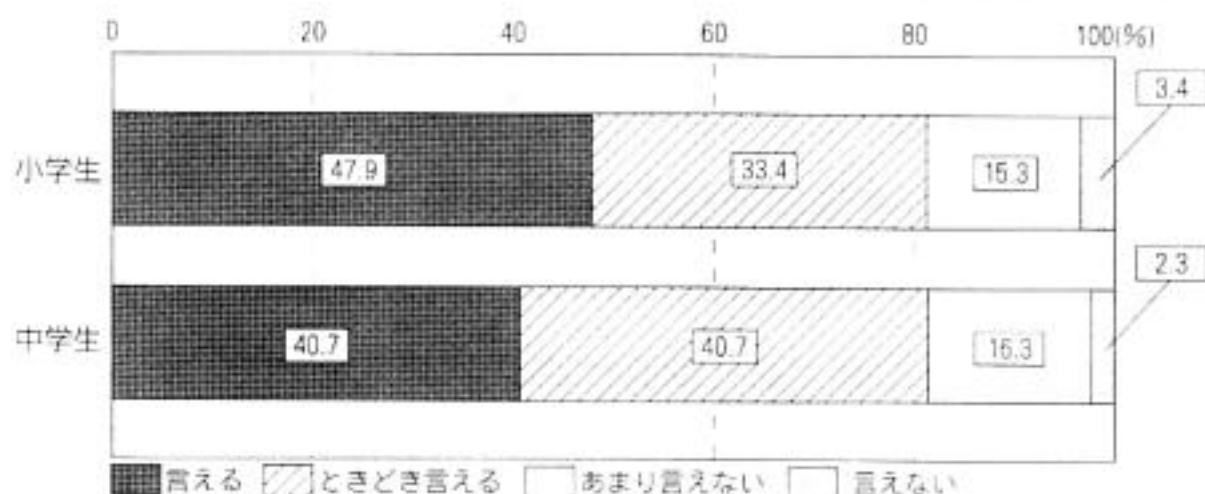


小・中学生ともに、友だちと一緒に話をしたり、スポーツや遊びで体を動かしたりしているときに楽しいと感じています。小学生では次いでゲームや学校行事、中学生では次いで買い物や部活動、そしてメールや電話などをしているときに楽しいと感じています。



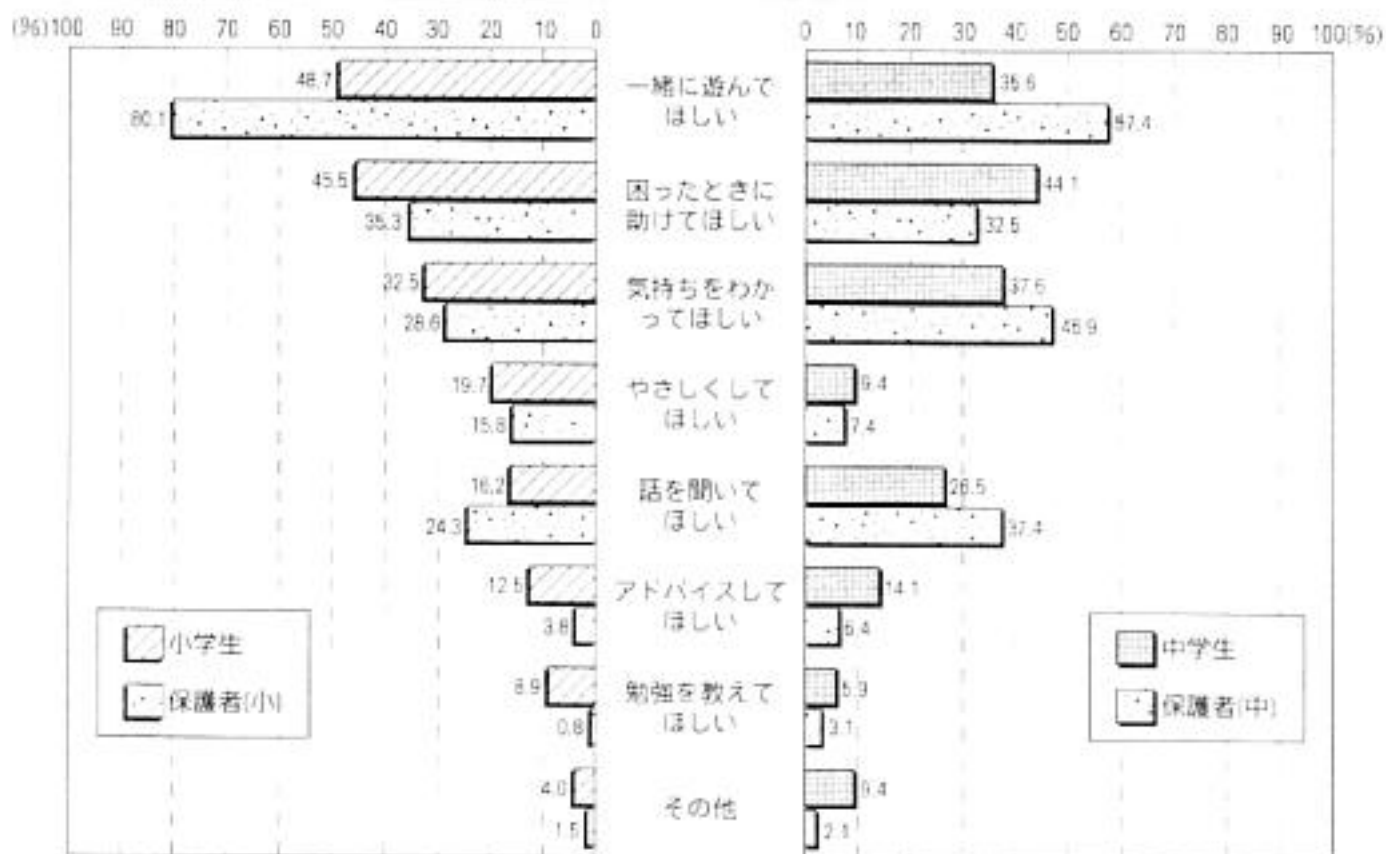


◆ あなたは、友だちから嫌なことを頼まれたときに「嫌」と言えますか。◆



嫌なことを「嫌」と言える子どもが多くてよかった。

◆ あなたが、友だちに望むことは何ですか。(複数回答2つまで) ◆

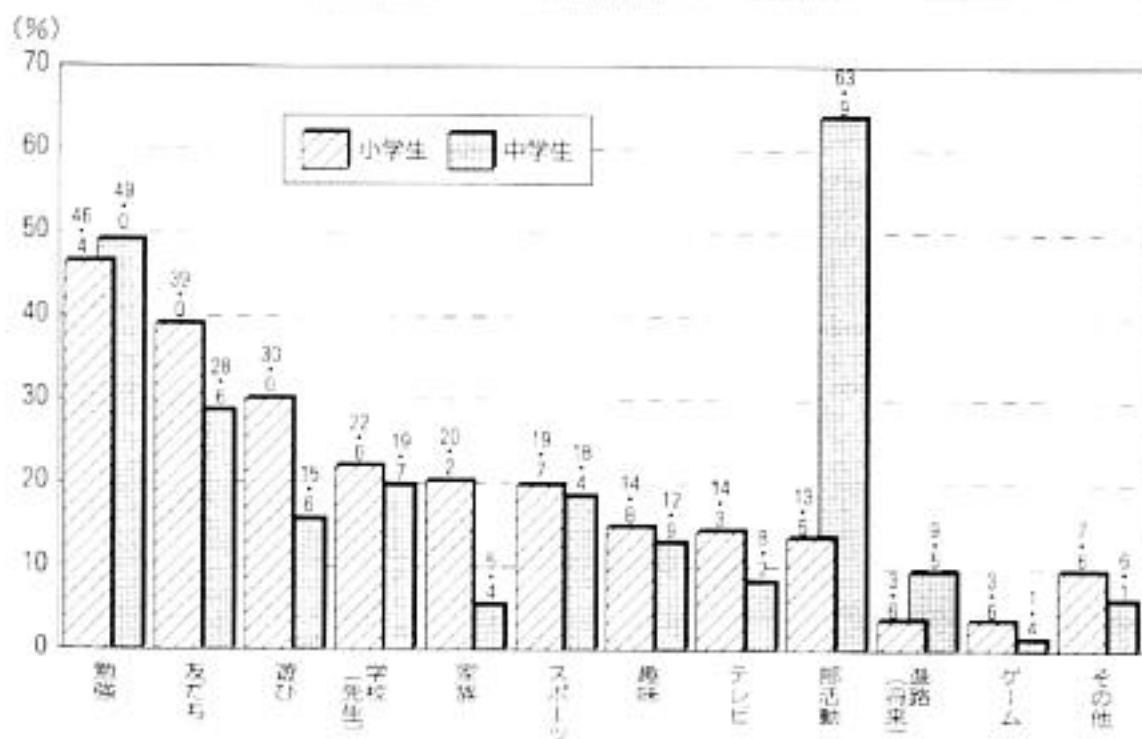


小・中学生ともに、「困ったときに助けてほしい」という答えが多く、小学生は、「一緒に遊んでほしい」ということも望んでいます。

中学生は「気持ちをわかってほしい」「話を聞いてほしい」などもっと友だちとの心の結びつきを大事にしたいと考えています。

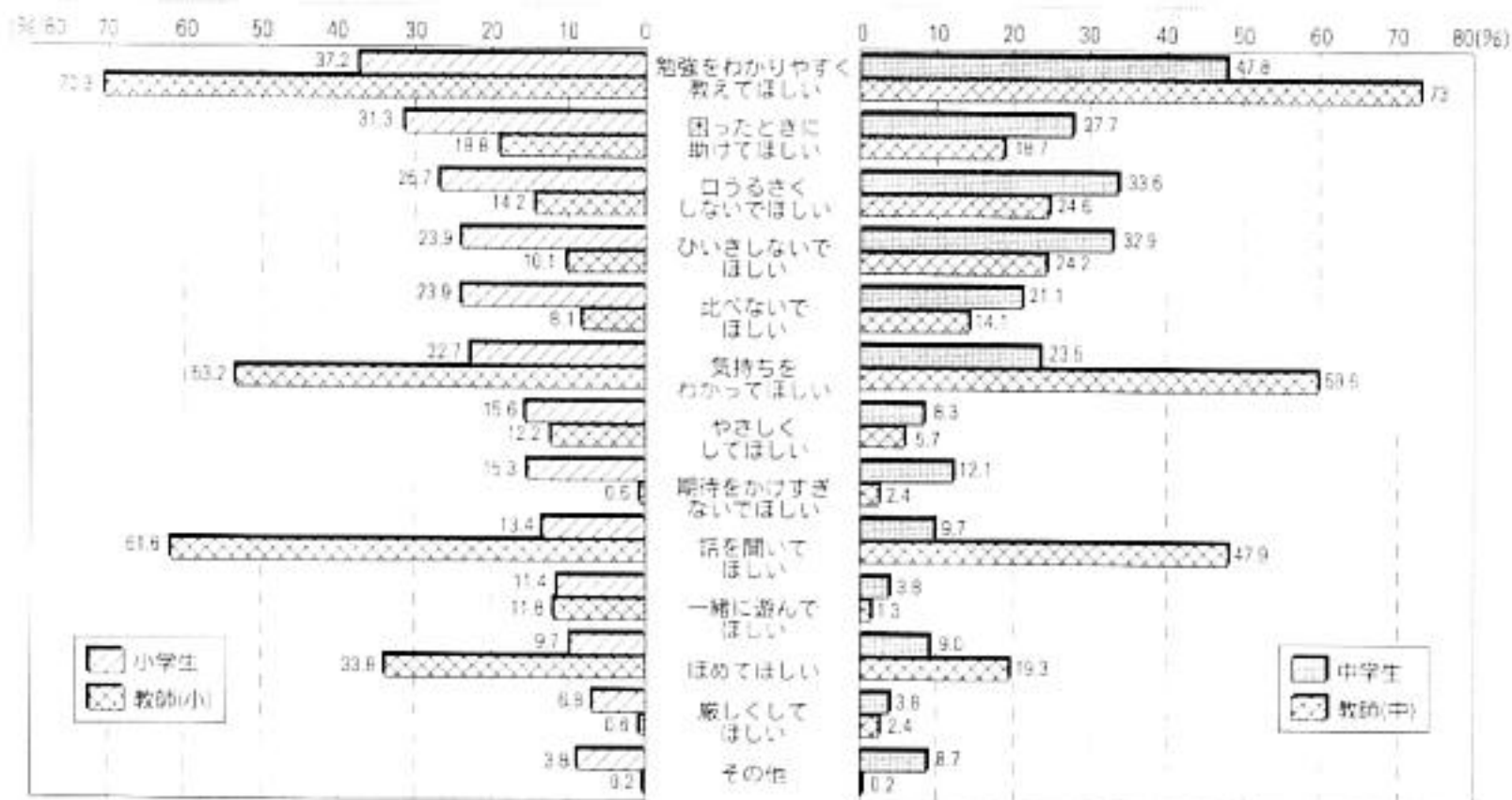
### ③ 先生との関係

◆ あなたは、先生とどんなことを話しますか。(複数回答3つまで) ◆



◆ あなたが、先生に望むことは何ですか。(小・中複数回答3つまで) ◆

◆ 児童生徒が、先生に望むことは何だと思いますか。(教師複数回答3つまで) ◆

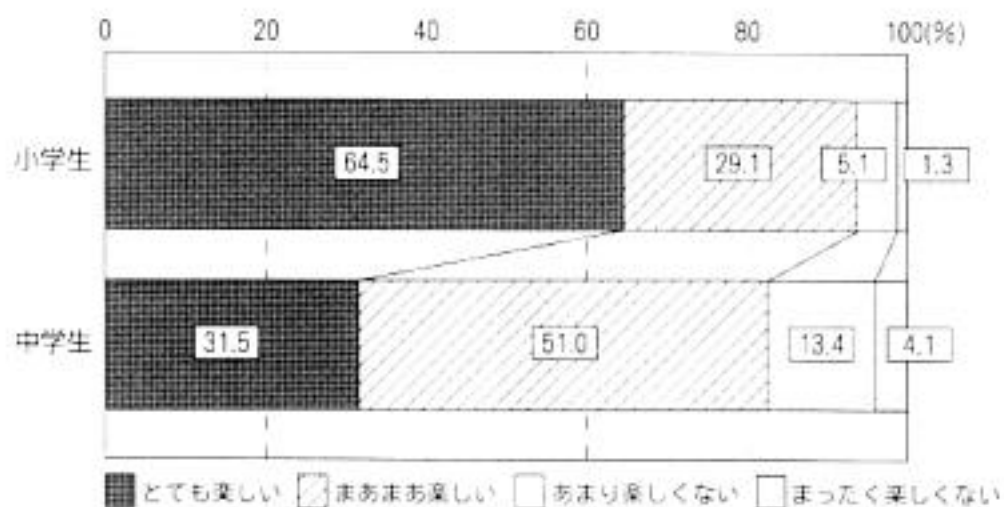


子どもたちは、「勉強をわかりやすく教えてほしい」「困ったときに助けてほしい」などを先生に望んでいることがわかります。



#### ④ 家族との関係

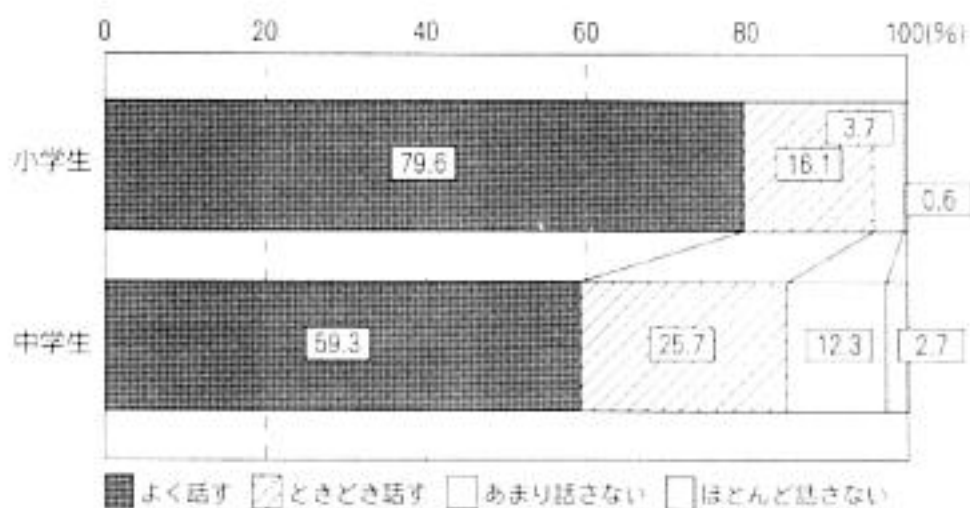
◆ あなたは、家族で過ごす時間が楽しいですか。◆



やっぱり家庭は安心できる場所なんだね。

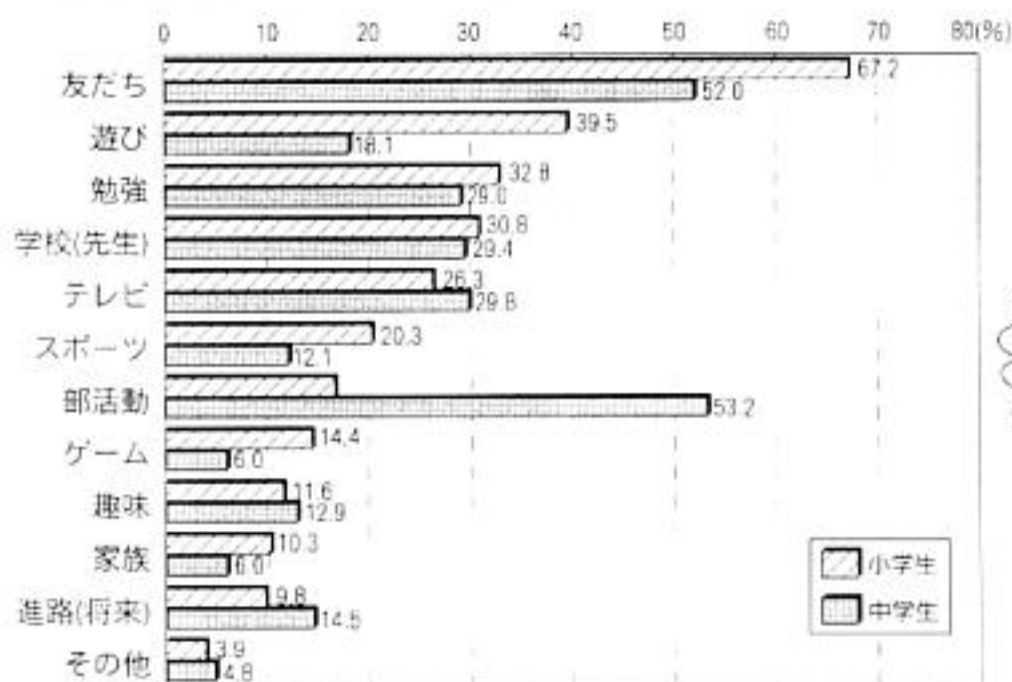


◆ あなたは、家の人と話をしますか。◆



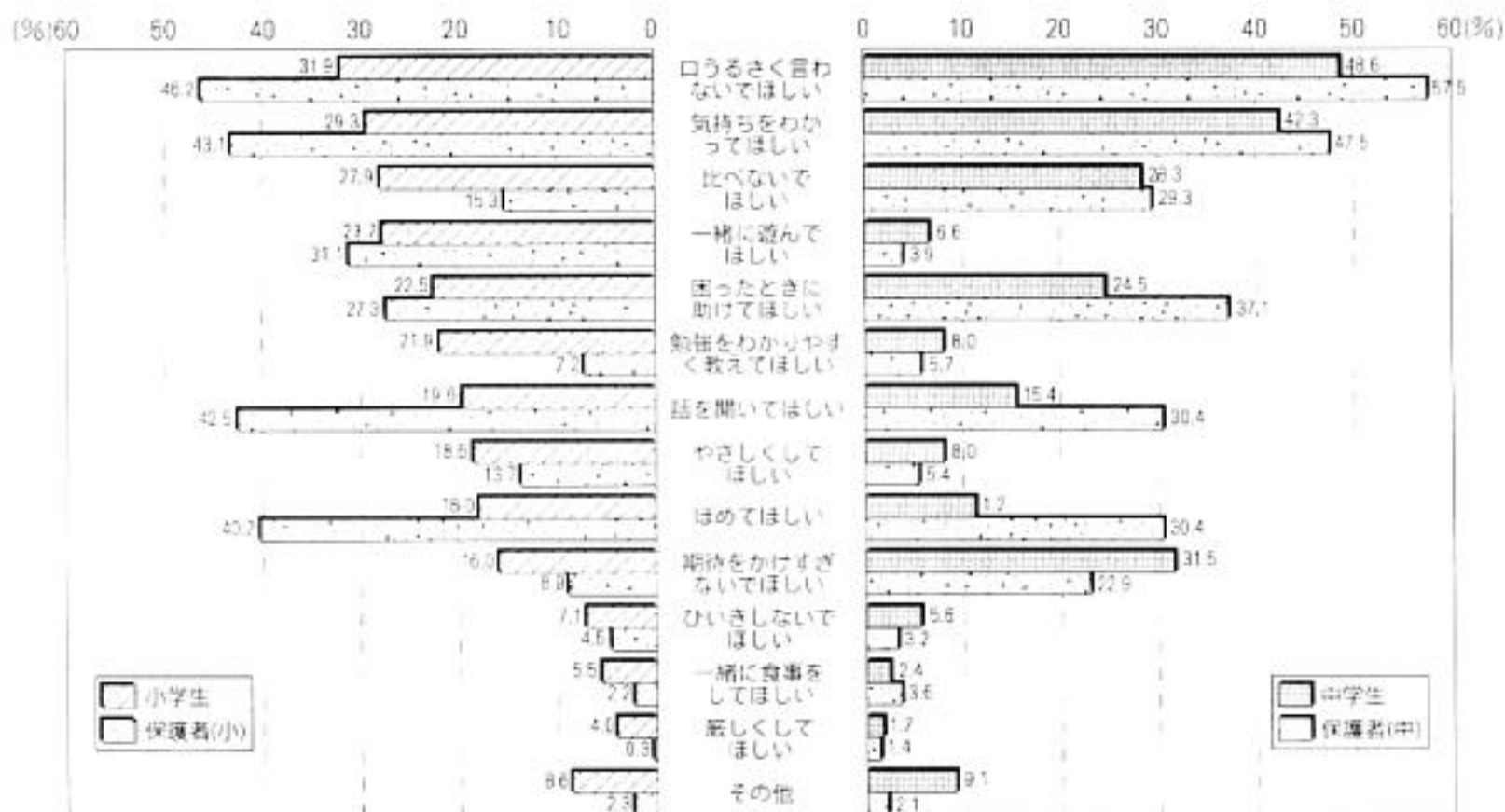
多くの小・中学生が、家の人と話をしています。しかし、中学生になると、「よく話す」割合が減り、「あまり話さない」割合が若干高くなるようです。

◆ あなたは、家の人とどんな話をしますか。(複数回答3つまで) ◆



◆ あなたが、家の人に望むことは何ですか。(小・中複数回答3つまで) ◆

◆ お子さんが、家の人に望むことは何だと思いますか。(保護者複数回答3つまで) ◆



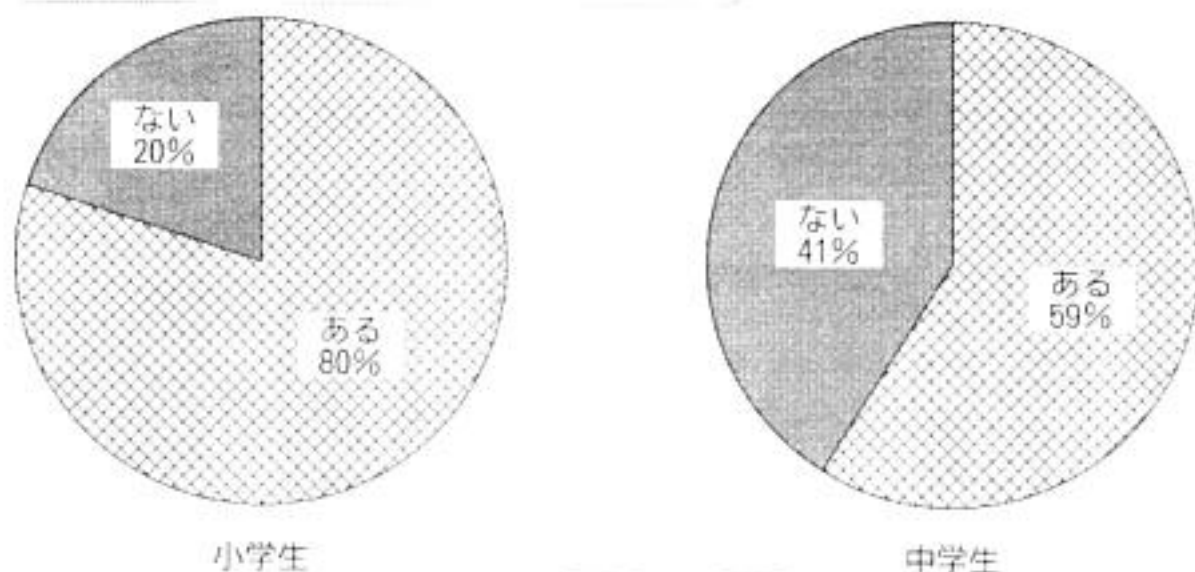
子どもたちは家の人に、「口うるさく言わないでほしい」「気持ちをわかってほしい」と、望んでいます。小・中学生ともに、自立したい気持ちと理解してほしい気持ちの両面を持っているようです。



### Ⅲ 輝く未来に向かって

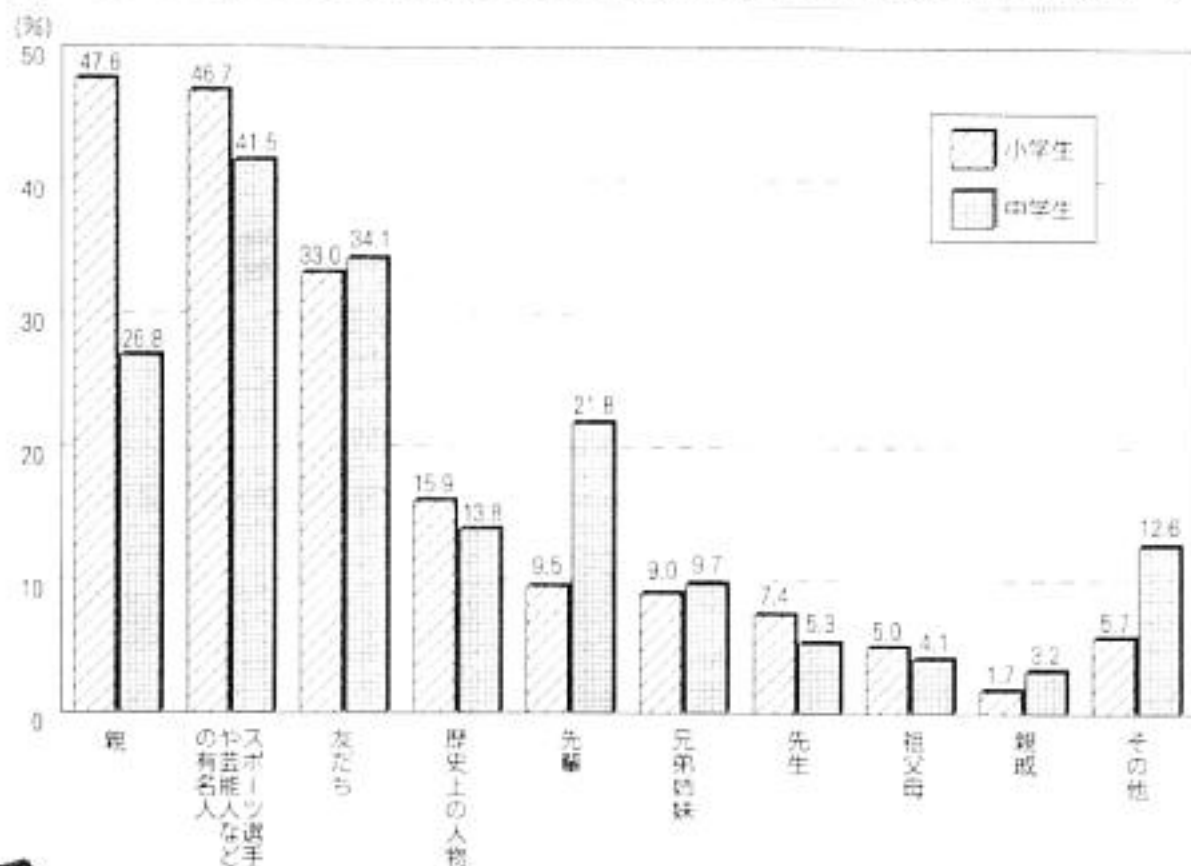
#### ① 将来の夢について

◆ あなたは、将来かなえたい夢がありますか。◆



小学校では8割、中学校では6割の子どもが将来の夢を持っています。小学生のほうが、中学生より夢を持っている割合が高いですね。

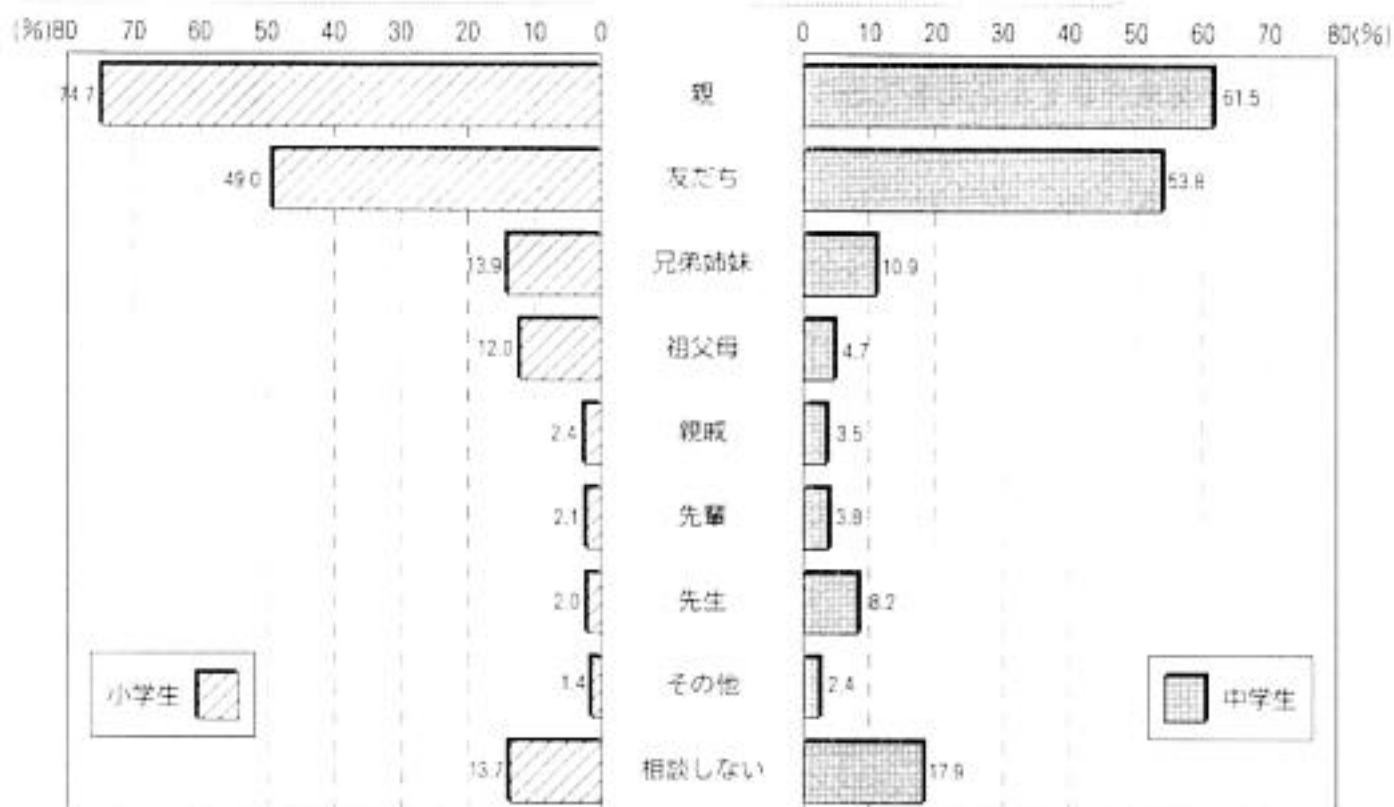
◆ あなたの理想とする人(目標とする人)はだれですか。(複数回答2つまで) ◆



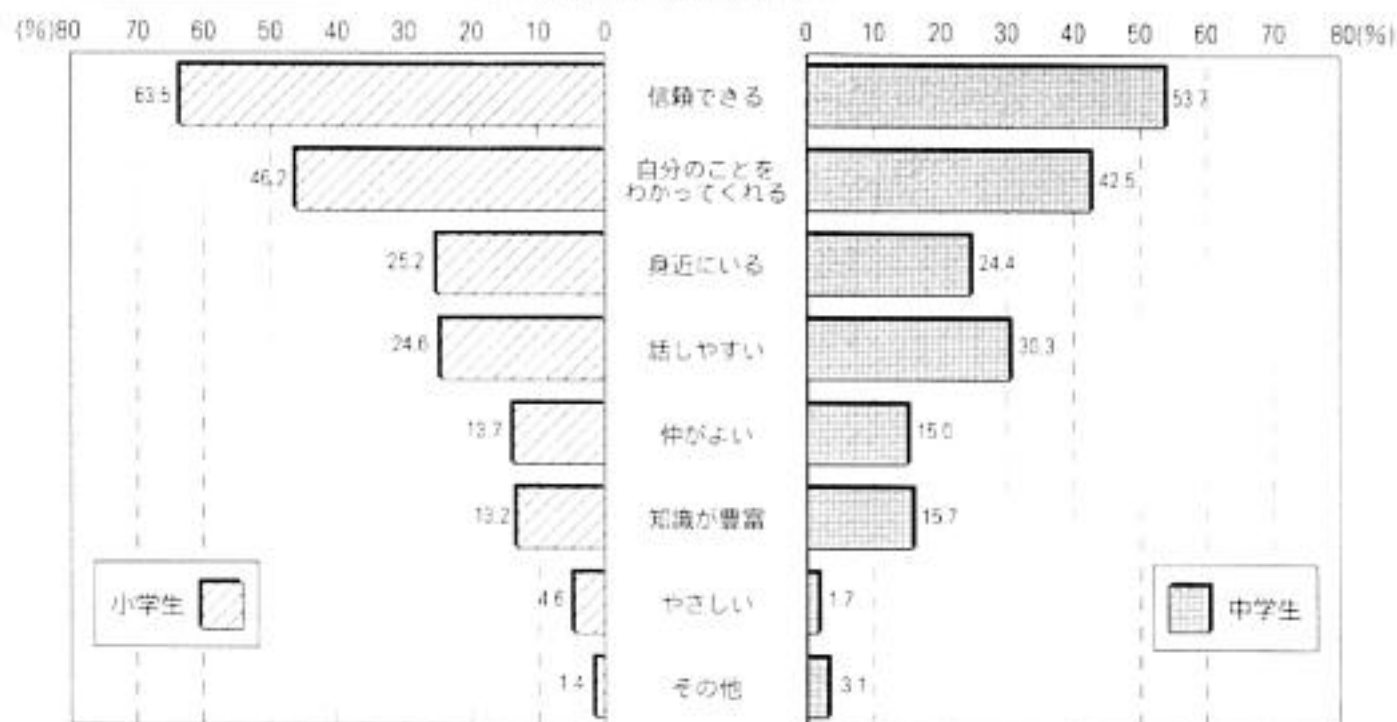
子どもたちは、自分の理想を「スポーツ選手や芸能人などの有名人」に照らし合わせることが多いです。

## ② 将来に向けての話し合い

◆ あなたは将来の夢についてだれに話しますか。(複数回答2つまで) ◆



◆ なぜその人に話しますか。(複数回答2つまで) ◆

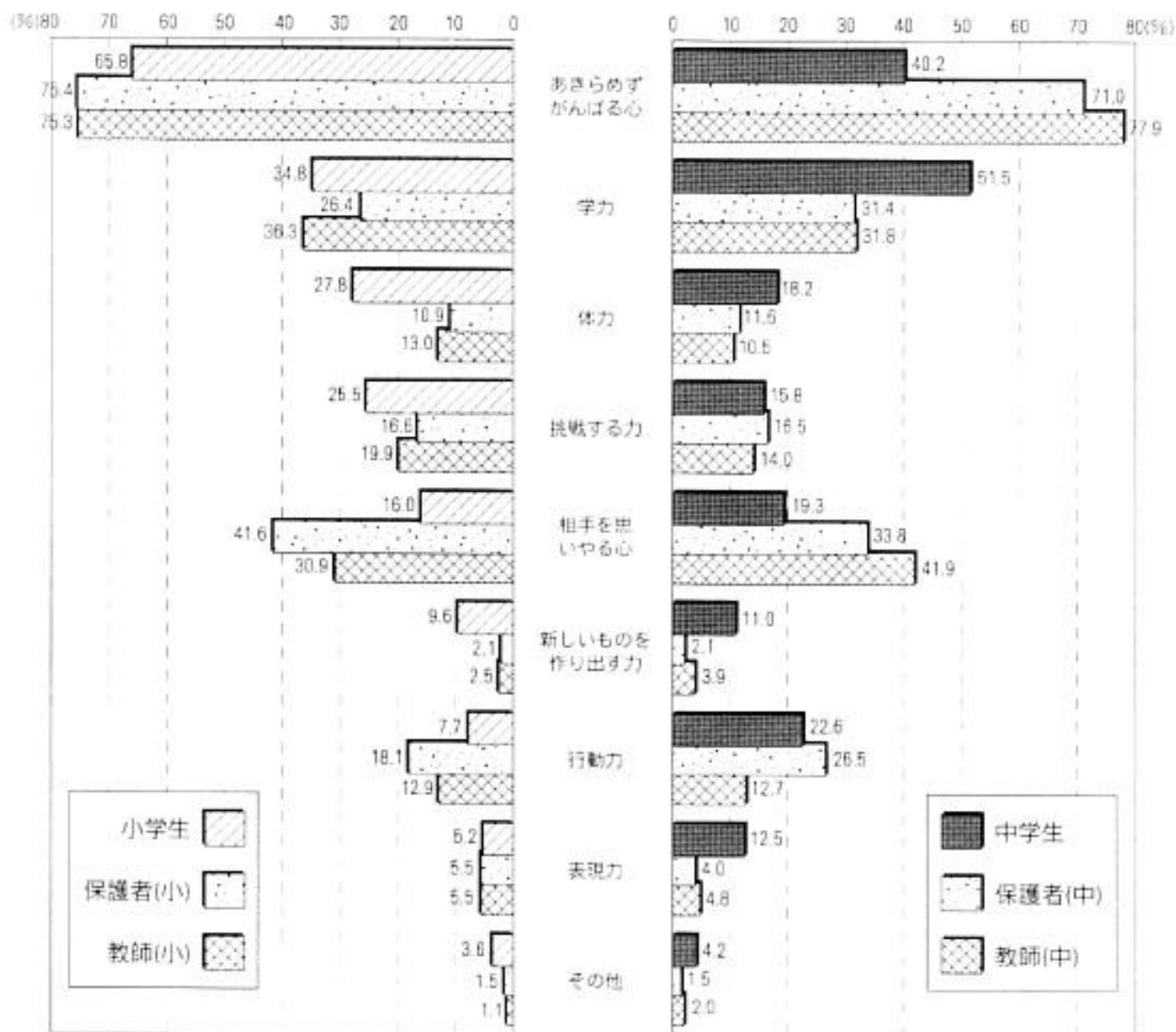


将来の夢について、やはり「親」に話す子どもが多いです。信頼できたり、自分のことをわかってくれたりする身近な人に、子どもたちは話しています。



### ③ 夢に向かって

- ◆ あなたは将来の夢をかなえるために、何を身につけたいですか。(小・中複数回答2つまで) ◆
- ◆ お子さんが将来の夢をかなえるために、何を身につけさせたいですか。(保護者複数回答2つまで) ◆
- ◆ 児童・生徒が将来の夢をかなえるために、何を身につけさせたいですか。(教師複数回答2つまで) ◆



小学生は、「あきらめずがんばる心」、中学生は、「学力」が必要であると感じています。保護者・教師は、「あきらめずがんばる心」、次いで「相手を思いやる心」を身につけさせたいと思っています。

## あ と が き

一宮の教育白書「明日を生きる子どもたちのために」は、学校や家庭生活における子どもたちの意識や実態、保護者・教師の意識を明らかにすることを目的として編集されてきました。

近年、携帯電話にからむ事件やトラブル、ブログによる誹謗中傷などのトラブルが後を絶ちません。今までにも増して、いじめの現象が大人の見えないところで進行し、深刻化する傾向があります。今回はこうした教育問題を踏まえ、「絆～心と心のつながりを求めて～」をサブテーマに添えてアンケート調査を行い、分析しました。

今後も私たち教師は、保護者とより一層の共通理解を図りながら、教育活動をすすめていく必要があります。この冊子が、子どもたちがよき人間関係を築き、より健全に成長していくための一助になれば幸いです。

なお、この冊子を編集するにあたって、保護者ならびに児童・生徒の皆様、先生方にはアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。白書編集委員一同、心よりお礼申し上げます。

2008年12月

白書編集委員代表  
渡 辺 博 司

### 「明日を生きる子どもたちのために」編集委員

芳賀 康臣 (大徳小)	河合 洋一 (丹陽中)
山下真希子 (木曾川中)	佐々木幸夫 (西成中)
森 隆志 (今伊勢西小)	宮崎 美緒 (三条小)
今枝 雄二 (萩原中)	林 久人 (尾西第二中)
櫻井 俊光 (萩原小)	内田あつ子 (千秋中)
渡辺 博司 (萩原中)	

#### アンケート有効回答者

小学5年生	1,373人	小学保護者	1,212人	(42校)
中学2年生	640人	中学保護者	610人	(19校)
小学校教師	805人	中学校教師	456人	



<表紙のことば>

見えない絆の影響力。  
見えない絆の安心感。  
輝く子どもたちの明日を願って…

表紙デザイン 濱田くみ子

2008 明日を生きる子どもたちのために  
編集発行 富市小中学校PTA連絡協議会  
・ 富市教職員組合  
印刷所 南メディアノート  
2008年11月印刷  
2008年12月発行